

天遊 Ten You

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

Summer 2020 Vol.51

新任役員紹介
広谷 博史 理事・副学長

新任役員紹介
片桐 昌直 理事・副学長

新任役員紹介
西田 文比古 理事

新任副学長紹介
赤木 登代 副学長

公式キャラクター紹介
やまおとたまごどり

附属学校園ウォッチ

TOPICS

特集
1

クラウドファンディング「教師の魅力向上プロジェクト」 「ほたる池復活プロジェクト」

特集
2

インターネットを活用した授業



 **YouTube OKU Channel**

インタビューやイベントの様子など動画を随時更新中!
チャンネル登録してね!



国立大学法人
大阪教育大学

TenYou vol.51 | 3

新任役員紹介

広谷 博史

ひろたに
ひろし

理事・副学長に聞く！



【略歴】

2017年4月～2020年3月 附属天王寺中学校長
2017年4月～2020年3月 附属高等学校天王寺校舎主任
2020年4月～ 国立大学法人大阪教育大学理事・副学長
(附属学校担当)

新任役員紹介

片桐 昌直

かたぎり
まさなお

理事・副学長に聞く！



【略歴】

2004年4月～2020年3月 大阪教育大学学長補佐
2012年4月～2016年3月 大阪教育大学情報処理センター長
2016年4月～2020年3月 大阪教育大学科学教育センター長
2020年4月～ 国立大学法人大阪教育大学理事・副学長
(研究・学生支援担当)

これまでの経歴含め 自己紹介をお願いします。

人と違うことしたがる子どもでした。例えば、「水に関係があるものの絵を描きなさい」といわれると、他人が絶対に書かないものを必死で考えて、マンホールの絵を描いたことがあります。高校生の時に将来はDNAの研究がしたいと思い、大学は農学部に進学。しかし、多くの同級生が最先端の生化学を志すなかで、ここでも人と同じことが嫌になり、地味な水環境の研究をすることになってしまいます。

大教大に着任したきっかけ などについてお聞かせください。

大学院を出てから、ダム湖の水質や河川水中に生息する微生物の研究を本格的に開始しました。フィールドワークを重視し、とにかく現場に行き、現場の様子を観察することを大事にしていました。最初に着任した愛媛大学には附属農業高校があったのですが、そこに新設された総合科で、大学教員が高校生を教える授業が始まることになり、授業を担当することになりました。この授業でも、高校には無理を言って、生徒をなんども現場に連れ出しました。白状すると、始めはこの授業をするのがめんどろで仕方なかったのですが、大学生と高校生の違いに面白さを見つけ、自分の専門分野を工夫して理解してもらうことに喜びを感じ、徐々に附属高校の授業が楽しみになってきました。当時は大学の教養部というのが全国で廃止され、代わりとなる基礎教育のカリキュラムが整備される時代でした。愛媛大学の教養教育を改善する全学委員に任命され、教養学科の充実に取り組む中で基礎教育の重要

性と楽しさを認識することができました。しかし、本来研究に費やすべき時間が会議や資料作りにとられ、若い大学教員としてこれでいいのかと自問自答をする中で大阪教育大学の教養学科への赴任が決まりました。

着任してみると、存分に研究時間もあり、教養教育にも力を入れることができて期待通りでした。しかし、たくさんあると思っていた附属学校園とはほとんど縁が無く、この点は少しあてが外れたように感じました。

本学での研究者、教授としての日々で 印象に残っていることは何ですか。

なんといっても、教養基礎科目「水と環境を考える」は、講義をしていて楽しい授業でした。4月当初は関心の薄かった学生たちから、回を重ねるごとに手ごたえが返ってくるようになります。水や環境は身近なので、専攻や学年に関係なく興味を持ってもらえたと思います。そして、受講された方はわかると思いますが、最後の回で、今まで扱ってきた「水」とは全然関係がない(?)メッセージを伝えて幕を閉じると、みんながきょとんとする間があって、その直後納得した顔に変わる瞬間があります。毎年のその瞬間が楽しみで一年間を過ごした、と言っても過言ではありません。毎年少しずつ改良を重ね、基礎教育の授業として完成度を上げていくプロセスに達成感を感じてきました。

理事・副学長としての役割と、 今後の抱負をお願いします。

3年前に附属中学の校長を兼任することになり、附属学校とのかかわりができました。生徒たちや現

場の先生方とも交わり、世界が広がりました。環境分野の研究者として、現場での体験を大事にしてきましたが、それは教育の研究でも同じです。符号化されたデータだけから得られる発見は限られています。やはり現場の空気を吸いながら考えることが必要だと思っています。せっかく附属学校があるので、大学の皆さんが附属学校園の現場から得たものを研究に生かし、大学の研究から得たものを附属学校園の現場に生かすことができるようになってもらいたいと考えます。理事として附属学校園を担当しますので、その点での役割を果たしていきたいです。

趣味や息抜きはありますか。

コンピュータのプログラミングで、簡単なツールのプログラムを書いたりしています。スケジュール管理のプログラムはもう20年以上にわたり、少しずつ機能をつけ足しながら使っています。2晩徹夜でプログラムを書き続けたこともあります。今は時間が取れないですし、それだけ熱中することはありません。あと飼っている2匹の猫の世話も息抜きになっています。

本学学生に向けて メッセージをお願いします。

先にも書きましたが、本物を自分の目で見ることは大事だと思います。必要だから見るのではなく、好奇心を持ち、機会があればなんでもまずは見てみて、現場の空気を吸って、そこから必要なものを発見するようにしてください。そのためには、常に疑問を持ち、自分の頭で考えるトレーニングを自分に課すことです。

これまでの経歴含め 自己紹介をお願いします。

小学生のころから調べるのが好きで、研究者に憧れていました。従って大学の教員になれたことは非常に幸運でした。学部、修士課程では、理論物理学を学びましたが、以前から生物に興味があり、博士課程では生化学に代わりました。この転身には、所属した研究室とは別の物理の研究室の教授から、医学部の教授を紹介してもらったというきっかけがありました。医学部出身でない私を受け入れて頂いた研究室の教授とともに感謝していることは言うまでもありません。また博士課程の間に、企業の研究室での研究も体験することができ、今でもこの企業の研究員の方々のお付き合いが続いており、財産となっています。

大教大に着任したきっかけ などについてお聞かせください。

博士課程で所属していた研究室の隣の研究室に公募案内が来ました。偶然その研究室には対象者がいなかったため所属研究室に案内があり、私が応募することになり、採用して頂きました。その際の面接で、理科教育の授業は専門の先生がおられるので、担当しなくてよいと聞き、安心したことを覚えています。着任時は、まだ教員養成課程のみで、研究室も天王寺(現西館のあたり)にありました。当時の教授(石橋教授)と同室の研究室でしたが、本当に自由に研究をさせて頂き、感謝しています。

本学での研究者、教授としての日々で 印象に残っていることは何ですか。

着任後、3年ぐらいで柏原に移転し、直ぐにアメリカに留学させて頂きました。毎日実験・研究の毎日で、この留学での成果で国際会議での発表や招待講演もさせて頂き、本当に楽しい1年6か月でした。ただ、英語は、日本人留学生が多い研究室でしたので、あまり上達しませんでした。帰国後も、研究テーマも自由にさせて頂いたので、楽しく研究を進めることが出来ました。また教育面では、専門の生化学だけではなく、知的財産教育にも広げることが出来、賞を頂くという大きな成果を挙げることが出来ました。

理事・副学長としての役割と、 今後の抱負をお願いします。

理事・副学長という非常に重い役割を担うことになりました。担当は、主に学生支援、研究、入試です。この中で学生の皆さんと直接関係するのは、学生支援です。入試と合わせると入口から出口まで担当することになりますが、学生の皆さんが、教員や教育を支援出来る人材になり、社会で活躍出来るまで、精一杯支援したいと思っています。現在新型コロナウイルスの流行の影響で、大変厳しい状況の学生さんもおられると思いますが、まず教職員にご相談ください。出来る限りの支援を行いたいと思います。

趣味や息抜きはありますか。

読書と言うといいのですが、小説とかではなく、専門の隣接分野の入門書が多く、さらには、読むより買ってしまう方が早く、結局「積読(つんどく)」になっています。ですので、息抜きは、書店に行って本を選んで買うことが、一番の息抜きで、一旦大きな書店に入ると、専門の化学、生物、医学、薬学から知的財産関係、さらには、教育書まで回るので、すぐに一時間ほど時間がたちます。今は、書店に行けませんので、ネット購入となり、楽しみが半減しています。あとは買い物後、スターバックス等で、カフェラテを飲むことぐらいです。

本学学生に向けて メッセージをお願いします。

これまでの卒論生や授業での学生をみて感じたのは、やはり本学の学生は、基本的にいい意味で真面目であるということ、一方自分の持っている能力を自分で低くみているあるいは低くしている様な気がします。大変もったいなく、もっと自信をもって頑張ってください。社会的には本学学生は、皆さんが思っているより評価は高く、また、最近ますます所属学生さんの多様性が広がって来ていると実感します。本学は、教育系の大学として、教員も含め、より多様性を尊重する大学を目指しています。学生の皆さんも多様性に対する理解を深めて卒業してください。

新任役員紹介

西田^{にしだ}文比古^{ふみひこ} 理事に聞く！



【略歴】

1997年7月～2012年9月 東日本電信電話
2013年6月～ NTTラーニングシステムズ取締役
教育ICT推進部長
2020年4月～ 国立大学法人大阪教育大学理事
(産学連携担当)



これまでの経歴含め 自己紹介をお願いします。

NTTグループで社員研修や学校のICT化に取り組んでほぼ20年になります。大学生の皆さんが生まれた頃からということになりますね。こんなに長く関わるとは思っていなかったのですが、いろいろな方との出会いを通じて自分自身の可能性も広がり、日々楽しく取り組んでいます。天職というのはこういうものかもしれません。

パッチリ理系男子に見られがちですが、高校まではソフトテニスと小説三昧の日々で、トイレで本を読んで「オイオイ」と言われたことも。大学では教育社会学を学びました。とはいえ、教室で友人から「久しぶり!」と声をかけられるくらい学業以外のことに熱中していたので、「あの頃勉強していたら良かった!」と思うことも無いわけではありません(笑)。ゼミで兵庫県为学校対象の調査の際、16Kbyte(!)のRAMを持った研究室のパソコンでクロス集計表が出力できるプログラムを書いたこともあり。帰る間際にデータを指定して、一晩中「カッタン、カッタン」と動いて、ようやく一つのクロス集計が出力されるんですよ。今から見れば、なんて牧歌的なのだらうと思われるでしょうね。

NTTに入社したのは、民営化直後でとても活気がある会社に映ったからです。当時は通信というと「電話」の時代ですが、研修後は「パケット通信」というコンピュータ用通信サービスの担当部署に配属になり、電話に関わる仕事の経験はありません。入社5年目に郵政省(現在の総務省)に出向になり、黎明期を迎えたインターネットに関わ

ることになりました。NTTに復帰してからは現在のスマートフォンの原型のような端末・サービスの検討や、デジタル放送を支えるコンピュータシステムの開発に携わるなど目の前に出てきたテーマに全力で対応しました。

いろいろな仕事を経験してはいますが、けっして好奇心が旺盛なわけでも勉強が好きなわけでもないです。神戸の震災やサリン事件などもあった時期で、危機管理や財務などの知識不足を痛感したので、仕事をしながら技術経営の大学院に通って、マネジメントを研究したりもしました。知識を身に付けると仕事広がる、仕事広がると人の輪が広がる、人の輪が広がると知識が増えるといった体験が興味深く、避けたり選んだりせずに取り組んだ結果だと思います。30代でがんを患った後、「やらないことは勿体ない!」と思うようになったのも仕事観に影響しているかもしれません。

本学の印象、理事としての役割と 今後の抱負についてお聞かせください。

仕事上おつきあいしている本学の卒業生の方を見て、「人懐こい!」けど「こだわりがある」学生さんが多いのかなと期待しています。そういった方とのコラボレーションで実際に仕事上の課題が解決したり、新たな展開につながっているの、これからが楽しみです。産学連携担当という役割をいただきましたが、まずは学生や附属学校の子どもたちが外とつながるICTの基盤を整えていくのが優先課題です。学園祭でも研究でもサークルでも、いろいろな会社や団体と学生さんと大学その

ものが連携して広がりが生まれるように取り組んでいきたいですね。

趣味や息抜きはありますか。

土日は自宅近くのミニバスケットボールチームでコーチ兼審判をやっています。バスケットやラグビーなど、ボールを展開してプレイヤーが運動していく競技が、見ていても笛を吹いていても楽しいので、小学生のころからテレビで見っていました。ミニバスは末娘が卒業してからも自分一人が取り残されて、子どもから「コーチ」ではなく「先生」と言われたりする、仕事や大人の集まりでは想像もできない異次元の世界を楽しんでいます。自分自身は初心者から始めたので、子どもと一緒に練習しても子どもの方が上手くなってしましますが、その中での秘かな楽しみは、行動経済学で言う「ナッジ(nudge: 自発的に賢い選択へ導く工夫、手法)」を使って、子どもの活動が変わるように仕掛けていくこと。面白そうではありませんか?

本学学生に向けて メッセージをお願いします。

感染症対策など予期せぬ事態が起こり、これからはそれによって世の中の行動や思考も変わっていくと予想されます。自分自身でのクリティカルシンキングはとても大事ですが、それだけ、あるいは自分が所属している組織の殻の中だけで完結しては、社会や学校現場の課題解決には結び付きません。外との接着剤を自分から作って、化学変化を楽しみましょう。

新任副学長紹介

赤木^{あかき}登代^{とよ} 副学長に聞く！



【略歴】

2016年4月～ 大阪教育大学学長補佐
2020年4月～ 多文化教育系主任
2020年4月～ 国立大学法人大阪教育大学副学長
(国際交流担当)



これまでの経歴含め 自己紹介をお願いします。

天王寺キャンパスの近くで生まれました。子どものころから、外国の文化や言葉に興味を持っていました。小学校4年生からYMCAで英語を習い始め、姉の影響でビートルズ、カーペンターズ、そしてサイモンとガーファンクルの曲を意味がわからないままに歌っていました。わたしの研究分野はドイツ近代文学と女性史ですが、大学でドイツ語を専攻したのは、中学校の音楽の先生がシューベルトの『魔王』をドイツ語で歌ってくれたことが最初のきっかけだったかもしれません。その後トーマス・マンやヘルマン・ヘッセの文学に魅了され、ドイツに留学し、ドイツ語の教員になりました。

大教大とはもともと ご縁があったとお伺いしましたが。

私の母は大阪府松原市で40年間小学校教員として勤めました。母は、実は大阪教育大学の前身である「大阪府女子師範学校」を卒業しており、そこで学んだ「教師としてのスキル」にたいへんな自信を持っていました。同僚の若い先生に対しても、「あの人は大教大を出ているから、いい教師だ!」が口癖でした。ですから、私が2000年に大阪教育大学に就職が決まったときは、母の方が喜んだぐらいでした。もちろん、私にとっても大教大へ就職が決まったことは「人生最大の喜び」でした。

本学での研究者、教授としての日々で 印象に残っていることは何ですか。

日々の講義はもちろん、卒論や修論指導、さらにドイツ留学へのサポートなど、学生たちと一緒に学び、成長できた部分が大きかったと思っています。なかでもJASSOの奨学金が採択されて、ドイツ・トリア大学の夏期講習へ学生を引率したことは特に印象に残っています。また、トリア大学、エアランゲン・ニュルンベルク大学の日本学の学生たちを迎えて、「日本の学校と文化を知るための短期研修」をコーディネートした際に大きなやりがいを感じました。最近、ライプツィヒ大学教育学部と「国際協働プロジェクト」や「エラスムス+プロジェクト」(EUの学生交流プログラム) 等に取り組んでいます。

副学長としての役割と、 今後の抱負をお願いします。

国際交流担当の副学長職を拝命しました。4年前までグローバルセンターに所属しており、国際連携に従事した経験とスキルを活かしたいと考えています。これまで留学によって大きく成長した多くの学生を見てきました。教員になる人にはぜひ海外に行って、現地の学校を訪問し、実習を行って、「文化の多様性」を肌で感じてもらいたいです。そのために「外国語」、特に「英語」の力を伸ばす自主学習システムの構築が不可欠だと考えています。さらに、留学生に対しても「大教大で学んでよかった!」と言ってもらえるように、在学中にしっかりとしたスキルを身に付けるための「サポート体制」を整備する必要があると考えています。

グローバルセンターに異動してから、英語学習を再開し、学生時代に取得したドイツ語に加えて、英語の通訳案内士の資格を取りました。語学学習には目標を持って取り組むことが大切です。

趣味や息抜きはありますか。

犬と音楽が好きです。トイ・プードルを飼っており、ドイツ語で「Hanna von Rotenbaum」と名付けました。訳すと「赤木ハナ」なので、普段は「ハナちゃん!」と呼んでいます。音楽は70、80年代のポップスとクラシックを好んで聴いています。大人になって始めたピアノに加えて、吹奏楽部で吹いていたフルートを3年前に再開して、演奏も楽しんでいます。やはり、ドイツ語圏の作曲家(バッハ、モーツァルト、ベートーベン、シューベルト)に心惹かれます。

本学学生に向けて メッセージをお願いします。

私たちは今10年先どころか、来年の状況も予測できないほど変化の激しい時代に生きています。特に、今(2020年5月現在)、世界は新型コロナウイルスの感染拡大で多くの人命が失われ、経済も大恐慌に匹敵するような打撃を受けています。「アフター・コロナ」の世界はまだ見えず、「ウィズ・コロナ」の状態が続くものと思われます。しかし、今はオンラインで人々がつながりを保つことができ、AIが困難克服の鍵となるに違いありません。どんな「変化」にも対応できる力、情報活用とコミュニケーション力を本学で身に付け、社会に飛び立ってほしいと願っています。

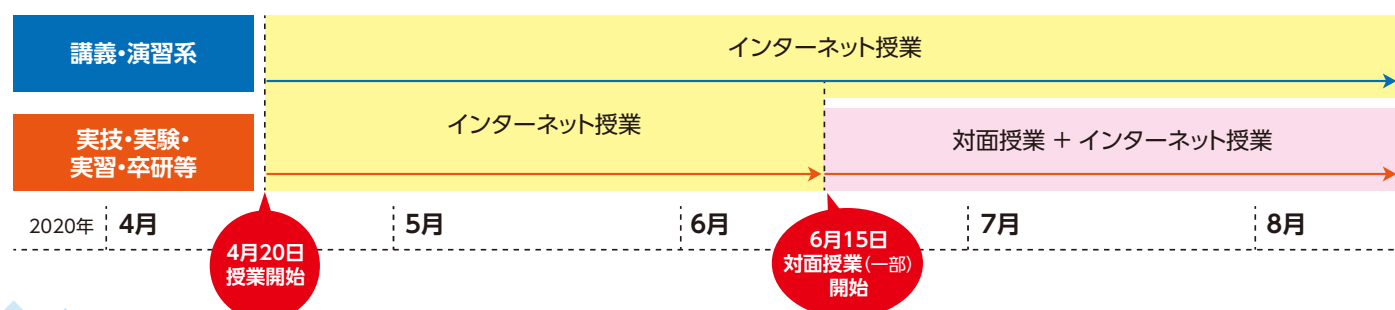
インターネットを 活用した授業

Withコロナだけではない、Society5.0時代を見据えた今後の新たな授業の可能性を探るべく、在宅の学生と講義室の学生に対して同時授業を行う【ハイブリッド型授業】試験実施の様子

コロナ禍対応「オンライン授業への挑戦を未来の教育へつなぐ!!」

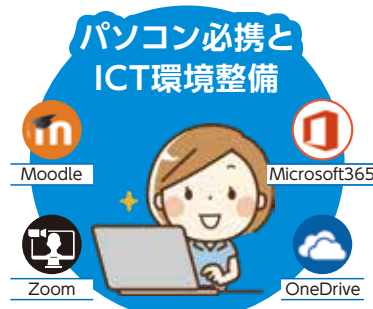
予測の難しいこれからの社会への対応、特に、今般のコロナ禍のような事態が生じた場合でも学生や子供たちの学びを保障しうる教育環境を整備・構築していくこと、加えて、個別最適化された学びを実現することが強く求められています。このため、ICTを基盤とした先端技術を効果的に活用して、対面授業とオンライン授業をどう組み合わせしていくのか、その中で蓄積される「学習履歴(教育ビッグデータ)」の活用方法などを先導的に実践研究していくことが重要です。ポストコロナ期に対応する「新たな学び」を実現するために、学校における教育の情報化を推進して、その実践研究の成果を全国に還元することは、教員養成系大学及び附属学校の最も重要な役割です。今回は、本学のコロナ禍対応、インターネットを活用したオンライン授業への挑戦や学生支援などの取り組みの一部を紹介します。

コロナ禍における本学の授業の取り扱い



インターネットを活用した授業の提供環境

- 2017年度学部入学生から
パソコン必携
- 資料提示・小テスト・課題提出・
ディスカッション等を可能とする
学習管理システム「Moodle」
- マイクロソフト社と
「Microsoft365」包括契約
(私物PCでOffice製品や
クラウドストレージサービスが
利用可能)



- オンラインによるFD^(※)実施と、教員間のサポート体制構築
 - オンラインによる Moodleサポートデスク設置
- ※FD：ファカルティディベロップメント
大学教員の授業内容や教育方法を改善し向上させるための取り組み

※FD：ファカルティディベロップメント
大学教員の授業内容や教育方法を
改善し向上させるための取り組み

インターネットを 活用した授業 について



授業実施 MODEL 1 新入生とのコンタクト

新入生へのホームルーム 家政教育部門 小崎恭弘准教授
[Moodle] × [LINE] × [Zoom]

ガイダンス・アンケート・履修登録説明・ライングループ・大教UNIPA、Active!mail、担任メッセージ発信や質問受付・Moodleでの自己紹介・第1回ホームルーム（ライングループのちZoom）など、様々なツールとデバイスやソフトを使い、学生に合わせた対応とコミュニケーションをとるよう努めました。



授業実施 MODEL 3 アクティブラーニング

アクティブラーニング 高度教職開発部門 峯明秀教授
「Moodle」×「Zoom」×「附属学校や学外との連携」

附属平野小学校・同平野中学校・同高等学校平野校舎と連携実施している授業「アクティブラーニング入門」では、授業準備や考え方を編集したビデオを学生にVOD（ビデオ・オン・デマンド）配信し、チャットメッセージでの質疑応答をLIVE配信で実施。学外のゲストティーチャーによる授業もそれぞれオンラインで展開。附属平野小学校の児童と学生が「Zoom」上でミーティングを最大50の別々のセッションに分割することができる「ブレイクアウトルーム」でのディスカッション。このほか、教員や同小学校の保護者、教育委員会関係者などによるモニタリングも実施しました。

▲教授「ICTを効果的に活用し、遠隔地の受講者と授業者を結び付ける新しい教育を実施することが出来ました。直接体験や対面ができなくても、工夫次第でアクティブな対話やグループ学習は可能です。コロナ禍のピンチをチャンスに変えて、様々な手法を柔軟に試みることから未来の学校教育の創造が始まります。」

学生発によるオンラインを利用した学生支援の広がり

課外活動や新入生歓迎行事「五月祭」など様々な学生生活の機会が制限されるなかでの取り組み例

英語教育専攻では、同専攻の新1回生33人に対して、2回生以上の25人が組織的に履修や学生生活についての助言や相談を行う「ピアメンター制度」を実施しました。



学校教育教員養成課程
英語教育専攻
上野 峻太 さん

このサポートは、上級生と講座の先生との協力のもとで実施できました。誰も経験したことのない不安定な状況ですが、学生と教員、大学が手を取り合い、共にこの局面を乗り越えるときだと考えています。私も一学生として、大学に関わり続けたいと思っています。

授業実施 MODEL 2 様々な授業での挑戦

授業 保健体育部門 小川剛司准教授
「Moodle」×「Google」×「YouT

日頃から授業、研究、教育実習担当、学生ゼミ所属はじめ、すべての業務を協働している保健体育とスポーツ科学では、今回のコロナ禍においても、全体で授業実施について模索。個別フィードバックは次の授業の動画で解説する、ゼミはZoom、講義はフォーラムなど、使い分けて授業を実施しました。



インターネットを活用した授業実施に向けての課題や実践事例を教職員のみなさまに情報共有し、より良い学びの環境を提供すべく、2020年3月より全学FD事業を実施しております。多くの先生方が経験したことのない授業環境に実施方法等、不安や戸惑いの中、先生方からの良い実践事例や悩みなどを共有する場をこまめに設けることで、少しでも良い授業実践ができるようにとの思いで取り組んでいます。

理数情報部門
尾崎 拓郎 講師



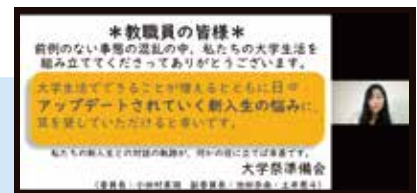
学生発によるオンラインを利用した学生支援の広がり

課外活動や新入生歓迎行事「五月祭」など様々な学生生活の機会が制限されるなかでの取り組み例

大学祭準備委員会のメンバーが、「新入生がどんなことに困っていたか」と題して、この準備会のSNS新入生歓迎アカウントを通じて、新入生の質問や悩みを支援。寄せられた内容(2,227件)を分析しました。

大学祭準備会委員長
学校教育教員養成課程
小中教育専攻
小田村 美湖 さん

「新入生のよろず相談屋」として、新歓アカウントを介して400人を超える新入生・大教生と対話できたことは、学祭準備会の立ち位置を捉え直す機会になりました。この取り組みで得たものを今後の学祭運営に生かしていきます。



**Society5.0
に向けた
本学の学び**

ICTを活用して新しい生活様式に対応した学びのスタイルを実践していきます。

面接授業 (BYOD)	オンデマンド型 (反転学習)	同時双方向型 (ライブ配信)	ハイブリッド型	補講・集中
● 資料提示 ● 小テスト ● 課題回収 ● チャット・掲示板	● 予習・復習 ● 課題提示 ● チャット・掲示板 ● WEBテスト ● ビデオ教材	● 社会人教育 (大学院) ● 教員免許状 更新講習 ● 公開講座等	● 対面授業との併用 ● 在宅学習と講義室 での面接授業を 隔週で交代	● 台風等の 災害への対応 ● 遠隔地からの 講師招聘

質の高い学びを提供するインターネットを活用した授業

やまおとたまごどり

毎年卒業式入学式はじめとした学内でのイベントで学生の皆さんにはお会いする
 本学の公式キャラクター「やまお」「たまごどり」を今回改めてご紹介！

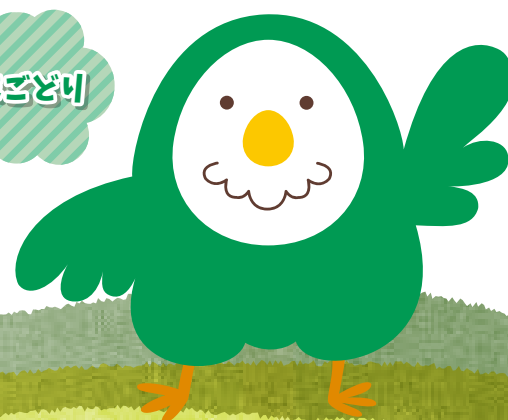
公式
 キャラクター
 誕生の
 経緯

2012年(平成24年)度学生チャレンジプロジェクト『大教キャラクター策定プロジェクト』
 からこのキャラクターたちが誕生しました。プロジェクトでは、全学に呼びかけて作品を公募し、メンバーによる審議を重ねて2体にも絞り込み、11月の大学祭(神霜祭)およびウェブ
 サイトで投票を行いました。結果は「やまお」の勝利でしたが、大学は「たまごどり」も個性
 豊かで甲乙つけがたいと判断し、2体とも公式キャラクターとして採用することとしました。

やまお



たまごどり



やまおはその名の通り「山」。柏原キャンパスのある金剛生駒紀
 泉国定公園の自然豊かな山々をイメージしています。口のトンネル
 から延びる線路は柏原キャンパスと天王寺キャンパスをつなぎ、
 さらに日本中へと続いていきます。

性格はのんびりやさん。ずっと昔からこの地を見守っていて、実は
 とても物知りなのです。でもあまりしゃべらないので、その知識を
 自分から披露することはめったにありません。柏原キャンパスがで
 てからは、学生たちが勉強や部活をがんばる姿を見守っています。

たまごどりは大阪教育大学のロゴマークのフォルムでもある
 「たまご」をイメージしてデザインされています。「たまご」には未来
 に向かって成長する無限の可能性があり、学生たちの成長や、子ど
 もたちを守り育てる教育のイメージにつながります。

性格は明るく元気。ちょっぴりおちょこちよいですが、何事にも
 一生懸命取り組むがんばりやです。今はまだ飛べませんが、未来へ
 羽ばたかんとする学生たちのように、いつか大空を自由に飛びまわ
 ることを夢見ています。

大学祭での
 写真撮影ブース



入学式や卒業式での
 パフォーマンス



学外イベント参加
 (林野庁山の日イベント)



学外イベント参加
 (柏原市マラソン大会)



2012年神霜祭での
 投票コーナー



大阪教育大学

附属学校園ウォッチ

Affiliated School | Osaka Kyoiku University



「学校安全の日」

附属池田小学校行事「祈りと誓いの集い」を実施

平成13年6月8日、大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った男が侵入し、8人の児
 童の命が奪われ、13人の児童と2人の教員が負傷しました。事件から19年を迎えた6月8
 日(月)、同小で追悼式典「祈りと誓いの集い」を行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、代表児童6人を含めた参加者約60
 人に規模を縮小しての実施となりました。犠牲になった8人の名が刻まれた「祈りと誓いの
 塔」の鐘が代表児童の手で鳴らされ、出席者全員が黙とうを捧げて冥福を祈りました。

事件当時は教諭として、その後一旦別の学校へ赴任後、副校長として2度目の赴任、3度
 目の赴任で今年4月から新たに校長に就任した眞田巧校長は、その時々の立場で本校児
 童の姿にふれ、本取り組みが大人の取り組みだけでなく、子どもと協働して受け継がれて
 いることを実感していることを語り、「本来なら、これまでの本校の学校安全の取り組みを
 支え、見守ってくださった方々にご参加いただき、保護者の方々、何よりも全校児童が参
 加しての集いを開催すべきところですが、感染拡大防止、学校が全面再開できていない状況
 をふまえ、本日のような形での開催となりました。本来ある
 べき姿のこの集いが実施できないことが本当に残念でなりません」「事件で亡くなられた8
 人のみなさん、あなたたちが大好きだったこの附属池田小学
 校は、引き続き、日本中の学校とさらには世界中の学校と手をたずさえ、学校が安全で
 安心して学べる場所であるようにこれからも努力を続けます」と
 決意を述べました。

なお、式典に先立って毎年、同小の全学年で行っている「安全科」の授業と、大学で実施
 している「事件を語り伝える事業」について、今年は新型コロナ
 ウイルス感染拡大防止の観点から例年通りの実施を見送ることになりましたが、それぞ
 れ、今後実施する「安全科」の授業への内容反映や別の方法で
 実施となっています。

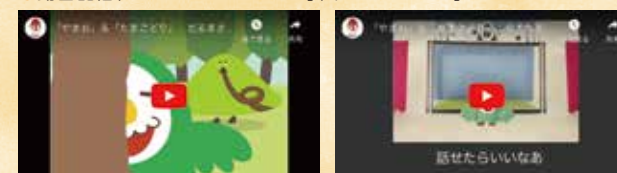
6/10掲載分



やまおとたまごどり 活躍しています！

やまおとたまごどりは、柏原キャンパス生協ショップでの
 グッズ販売や、LINEスタンプの販売のほか、デスクトップ
 用壁紙(無料)やウェブ会議用背景画像(無料)など、様々な
 形で活躍を展開しています。

●動画配信「だるまさんがころんだ」「やまたまのうた」



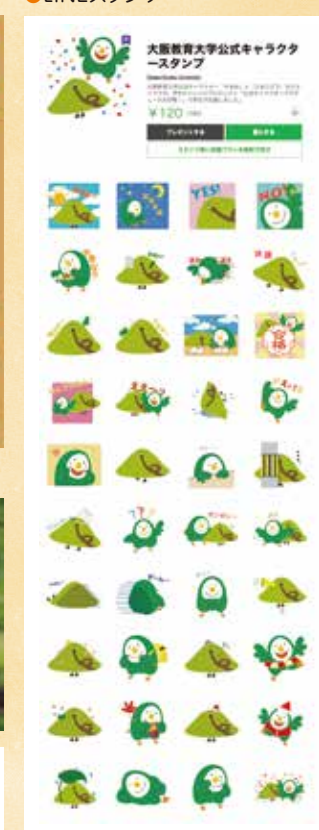
●デスクトップ壁紙・ウェブ会議用背景画像ダウンロード



●ブログ「やまおとたまごどりの森」



●LINEスタンプ





01 大学、附属学校園をあげての感染症予防対策を実施 6/5掲載分



新型コロナウイルス特措法に基づく緊急事態宣言が解除され、本学では、6月15日(月)から実技・実験・実習系の一部科目及び卒業研究・修士論文指導について対面授業の順次開始、附属学校園においては、6月1日(月)から学校再開による分散登校を実施しています(※)。これに合わせて各キャンパスと附属学校園では、新しい生活様式の徹底に向け、感染予防対策としての様々な対策を講じています。

マスクの着用や換気の徹底、手洗いなどの感染症対策をまとめた感染予防マニュアルの配布、3密の感染リスクを減らすため座席を離すなどの基本的な対策のほか、生徒たちが自身で机にパーテーションを組み立てた附属学校園もあります。また、教室や講義室をはじめとした各場所への消毒剤アルコール等の準備、網戸など換気のための設備確認と新たな設置、ソーシャルディスタンスを確保するためにベンチなどへの注意換気の張り紙、各対応窓口へのアクリル板やシートの設置、心のケアの体制など、大学、附属学校園それぞれの環境や状況に合わせた対策や対応を整えています。

研究・学生支援担当の片桐昌直理事・副学長は、「緊急事態宣言は解除され、大阪での休業要請も全面解除となったとはいえ、今後は感染拡大の第2波第3波を起こさないための対策とともに、その恐れも考慮したうえで新たな段階での視点に立って対策を進めていく必要がある。附属学校園も同様だが、大学では特に各実習室や講義室に個別の様々な対応が必要な部分も多く教職員が一丸となって学生たちの安全のためできる限りの対策を行っている。しっかりと感染症予防対策を講じて学生たちを迎えたい」と語りました。

(※)附属学校園は6/15から通常の授業及び保育を開始

◀本学は大阪府の「感染防止宣言ステッカー」を取得しています。

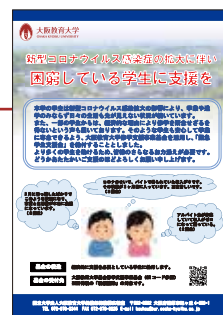


02 基金による緊急学生支援を実施 6/1掲載分

大学では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた学生等を対象とした緊急学生支援を実施しています。

このうち、家計が急変した学生等に対する大学独自の奨学金制度として、この度「大阪教育大学修学支援奨学金(家計急変採用)」を創設しました。これは、学生等への支援及び教育研究支援の推進等を図ることを目的とする「大阪教育大学基金」を原資とし、2,000万円を取り崩して資金拠出するもので、金額は1人当たり10万円を予定しています。5月29日(金)に募集を締め切り、6月中の支給に向けて現在支給手続きを進めています(※)。同基金を原資として、学生への図書の郵送サービスや、学内での学生アルバイトの検討などの支援策も検討しています。

(※)対象者へ支給済



修学支援事業基金へのご協力について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済的に困窮する学生の存在は深刻です。本学では早期に、学生が経済的な理由により修学を断念することなく、安心して学業に専念できるよう、大阪教育大学修学支援事業基金を活用し、「緊急学生支援金」給付を実施しましたが、今後も新たな対象学生の増加や、継続支援とともに新たな支援の必要も予想されます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一口 1000円 クレジットカード等によるインターネットでのお手続きとなります

●基金の詳細についてはこちらから▶

大学ホームページ 基金ページ

https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/somu/oku_foundation/forstudent2.html



●ご協力をお願いできる場合は

左記のページのこちらのボタンから▶

(寄附)基金寄附支払いシステムF-REGI

※所得税の「税額控除」の対象です。

◎クレジットカード等によるお手続き

インターネット申込

お知らせ 大阪教育大学広報誌天遊(TenYou)は 大学ホームページからご覧いただく形に変わりました

大阪教育大学広報誌「天遊」(TenYou)は紙媒体での冊子送付を終了し、大学ホームページから動画なども含めパソコンやスマホでいつでもご覧いただける形に変わりました。

各号の発行毎のお知らせメールをご希望の方はアドレス登録をお願いします。

発行は、大学ホームページ新着情報や公式フェイスブックなどでもお知らせします(年3回発行)。

大阪教育大学 天遊

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/kikaku/relation/tenyu.html>

メールアドレス
登録はこちらから▶



公式SNS アカウント名: OsakaKyoikuUniv



Twitter
<https://twitter.com/osakakyokuuniv>



Facebook
<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



Instagram
<https://www.instagram.com/osakakyokuuniv/>

各種イベント、ニュース等を配信しています。是非フォローしてください。

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

